

指示を正しく理解し、自信をもって行動する子

西 村 晃・出 脇 典 子
今 岡 雅 子・亀 本 良 一

1. 対象児のプロフィール

- (1) 生徒名 S・N (男) 昭和46年1月18日 (17歳 高等部2年生)

I Q 測定困難 中度精神遅滞 自閉的傾向

(2) 生育歴

出生時体重 3065g、正常分娩、安産、離乳5ヶ月頃から開始、はいはじめ12ヶ月、歩きははじめ19ヶ月、歯のはえはじめ12ヶ月ごろ、生後4ヶ月ひきつけをおこす、以後回数がふえるので、入院治療を受ける。本校小学部・中学部を経て、現在に至る。

父、母、祖父、兄 (別居)、妹の6人家族

(3) 一般的特性

- 騒音やせみの声に耳をふさいだり、注射、シャワーなどの外的刺激に極度の拒否反応を示す。
- 永久歯のむし歯が18本あり、かたい食物を十分かみくだけないことや、極度の偏食、食事量の乏しさにより、栄養の摂取に不均衡が生じ、持久力・筋力は相対的に劣っている。
- 一度身につけた生活・行動パターンは確実にこなしていく反面、環境や場面の变化に適応しきれず、今までの行動パターンに強いこだわりをもったり、新しい行動パターンに対して強い拒否反応を示すなど、生活の幅が広がりにくい。
- 特定の分野における記憶力・集中力はかなり優れている。
- 特定の場面や特定の相手に対しては、自分からすすんでかかわりをもとうとすることができる反面、集団のなかには声かけをしないと入っていけない。
- 会話は一語文、二語文が大半で、具体的な問いかけに対しては比較的的確に答えることができるが、抽象的な問いかけや、どちらかを選択させる問いかけにはとまどったり、オウム返しをしたりする。

(4) 諸検査の実態

- ・WISC-R 測定困難 ・S-M社会生活能力検査 SQ 38 (昭和62年5月実施)
- ・CLAC-II (昭和62年9月実施) ……図1参照
- ・CLAC-III (昭和62年12月実施)
- ・運動能力テスト (昭和62年4月実施)
 - 50m走……………13秒4 (A) 立ち幅とび……………1m21cm (B)
 - ボール投げ……………5m (B) ななめ懸垂……………0回 (D)
 - 持久走 (1500m) ……本年度実施せず ※ 10分36秒 (S61) (B)

・体力テスト（昭和62年4月実施）

垂直とび……………25cm（A） 背筋力……………測定不能（D）
 立位体前屈……………13cm（C） 握力……………右 14.0kg（A）
 肺活量……………1900cc（C） 左 15.5kg（A）
 伏が上体そらし……………44cm（A） 反復横とび……………21回（A）

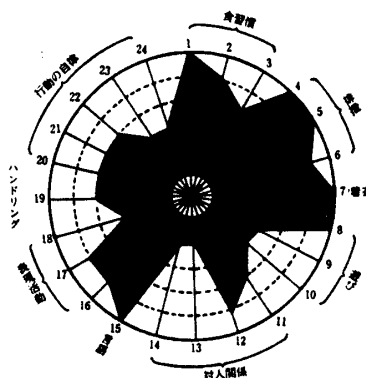
※ 記号について A…1人でできた。 B…声かけ等がないとできない。（声かけ、指示等があればできるが、ないとできない。） C…直接手を貸した。 D…やろうとしたができなかった。（測定に参加したが記録にならなかった。） E…全くできなかった。

(5) CLAC-IIからの考察

昭和62年9月に、精研式CLAC-IIを実施してみた。（図1参照）サイコグラムより、本児は対人関係と行動の自律（自発性、集中性、模倣、計画性）に著しい落ち込みが確認される。

対人関係では、よその大人や友だちが、名前を呼んだり、話しかけても聞こえないかのように無関心であったり、他人の行動に対しても、その人が眼中にないかのような振るまいをすることがあった。また、指示に対して一度で反応することは少なく、二、三度同じ指示を出さなければ行動に移そうとしないことが多かった。

一方、行動の自律の面からみると、すでに獲得された行動パターンの範囲なら、自発性、集中性もある程度みられるのだが、新しいものには概して無気力、無関心であった。模倣は、教師や友だちの言葉や流行語をときどき自発的に模倣する反面、指示による模倣は見習う意思があっても、うまくできないことが多かった。計画性は、着替え、食事等の日常的な活動は、自分の経験にもとづき、見通しをもったり、一人で教室移動ができたりした。だが、時間をみて行動したり、時間変更、場所変更など、習慣、経験を組み合わせての応用的活動には対応しきれなかった。



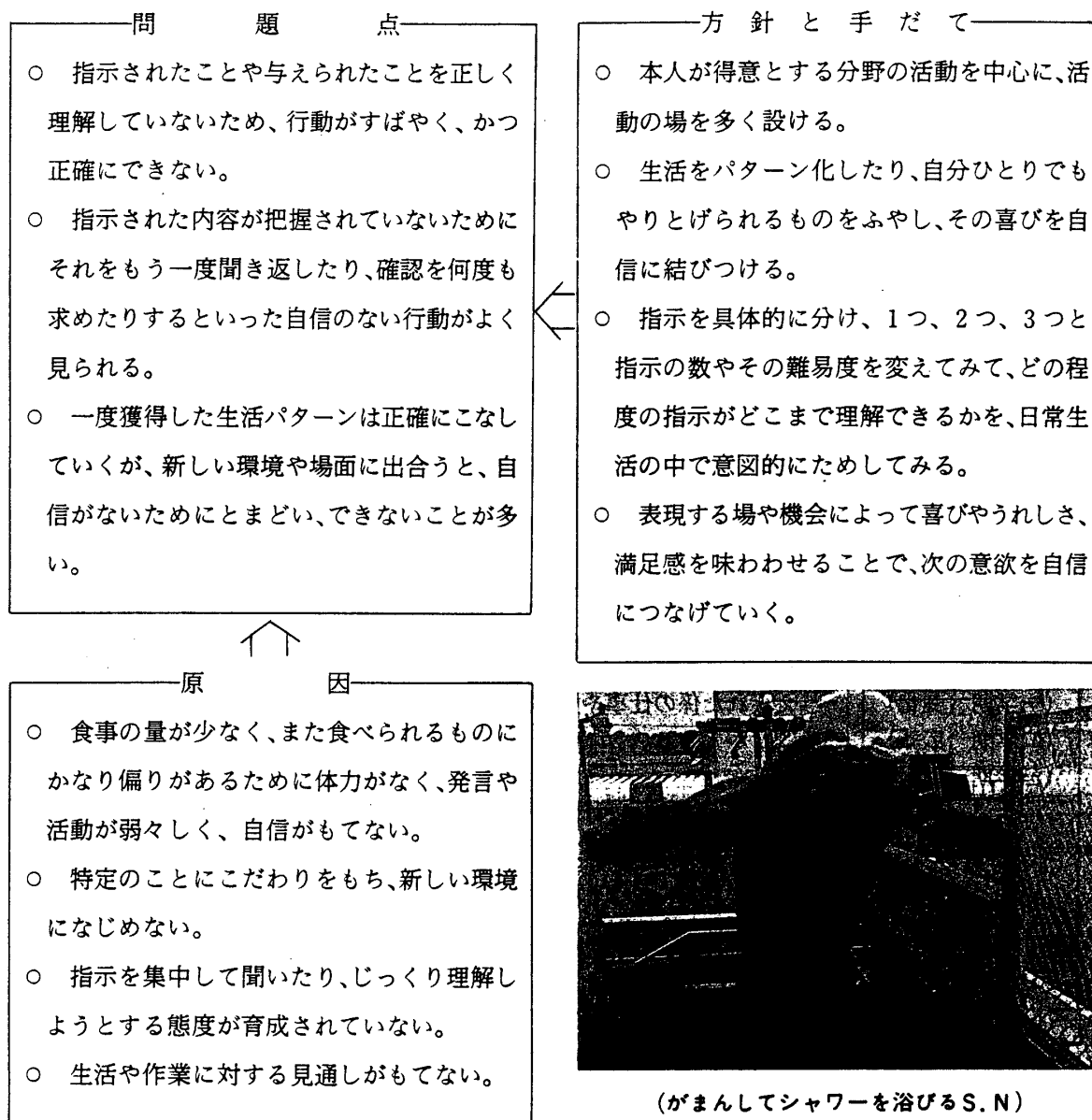
図一1

このように、対人関係、行動の自律面に課題をかかえているS、Nだが、表現的活動は比較的優れており、平仮名は50音すべてが読み書きでき、漢字も相当難しいものまで書ける。また、絵を描いたり、ピアノを演奏したりすることも好んでいる。したがって、国語、音楽、体育、生活一般などの教科を中心にさらに表現能力を高めていき、S、Nの行動に幅をもたせたり、食事量や運動量を増大させることにより、体力を向上させていき、行動に自信を持たせる必要がある。さらに、日常生活、学校行事を通して、好ましい人とかかわり方、学級集団、学部集団、全校集団のなかで自信をもって行動できる態度を身につけていくことが望まれる。

2. 個人目標の設定と研究方法

(1) 個人目標の設定

1で示した実態に基づき、指示を正しく理解して、自信をもって行動できる場面が多く見られるようになれば、生活力や行動範囲、人間関係がぐんと広がり、さらには新しい技術や技能の獲得や向上が期待できると考え、「指示を正しく理解して、自信をもって行動する」を個人目標とし、さらに「人との好ましいかかわり方ができる子」を目指して取り組んだ。



『指示を正しく理解し、自信をもって行動する子』

「人との好ましいかかわり方ができる子」

(2) 研究方法

S、Nを研究対象児として取り組むにあたり、下記のような指導単位に分け、複数の教師がさまざまな視点、角度からそれぞれの目標を持って取り組んだ。

指導単位	目 標	担 当 者
生 活 一 般	・発問や指示を正しく理解し、自信を持って発言したり、作業したりすることができる。	西村を中心に
保 健 体 育	・指示を正しく理解し、ひとりで意欲的に運動できるようにしたり、友達を意識して運動しようとするすることができる。	西村、出脇 今岡（岩本）
音 楽	・大きな声で意欲的に歌を歌ったり、得意なピアノで演奏することによってよりすすんで、かつ自信を持って学習することができる。	今岡、西村 出脇（岡本）
数 学	・たし算の仕方や暗算の方法を繰り返して学習することにより身につけ、自信をもって計算ができる。	（岩本）
国 語	・語いを増やし、読む、聞く、書く、話すなどの基礎能力を身につけ、自己を表現する力を高めていく。	出脇・西村 亀本
職 業 （印 刷）	・多種類の漢字活字の返し技能を習得することによって、自信を持って作業に取り組むことができる。	（八木・岩本）
日常生活の指導	・指示を正しく理解し、見通しを持ってひとりで次の行動に移ることができる。 ・食事の偏りをなくして、食事の仕方を工夫することによって食事の量をふやし、また、時間内に全部食べられるようにする。	西村・出脇 亀本
委 員 会 （一学期 美化） （二学期 広報） （三学期 広報）	・与えられた係の仕事や作業を正しくかつ、自分ひとりですることができる。	出脇・亀本
ク ラ ブ （前期 サッカー） （後期 ゲーム）	・すすんでサッカーやゲームをやろうとし、みんなと一緒に楽しむことができる。	西村
部 活 動 （ジョギング）	・自らすすんで、自分のペースで最後まで走りぬくことができる。	西村

これらの各指導単位で各担当者を中心に、指示を正しく理解し、生活、行動パターンを広げ、自分ひとりで、自信を持って発言、行動、作業等をしようとする態度の育成を目指して、本研究に取り組んだ。

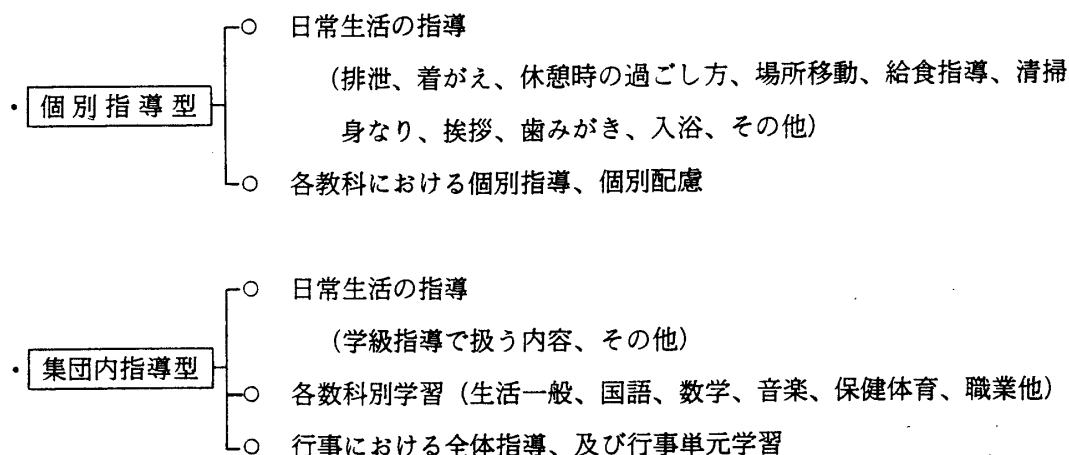
そこで、基本的に本研究に取り組むにあたり、どのような方法でS、NにアプローチしていけばS、Nの目指す目標に少しでも近づくことができるかを考えた。基本的な考えとして、指導の形態を下記のように設定してみた。

○個別指導型……個別指導。S、N本人と教師とのやりとりが中心になるもの。主に日常生活の指

導の中の個別指導や授業の中でのS、N個人に対する指示や配慮、アプローチ等を中心とする。S、N対教師の直接指導型。

○集団内指導型…他生徒との関わりをもった中での、学級集団を母体とした、あらゆる学習集団、生活集団への指導。集団（S、Nを含む）対教師の間接指導型。

以下の記述において、個別指導型、集団内指導型としてすすめていくこととする。



※ ただし、上記の形態の分類はいうまでもなく完全に分類できるものではない。必ず日常生活の指導の場面や授業の中でも両者は兼ね合せて指導すべきものである。ここでは、集団の中で他生徒との関わりを持ちながら育つS、Nにスポットを当てたために、あえて分類したのである。

3. 取り組みの構想

2で示した個別指導型と集団内指導型をどのように高等部教育課題の中で実践していけばよいかを記すため、下記の表-1で示す場と表-2で示す各指導単位の主な学習のポイントと概要、及びS、Nに対する配慮事項を提示する。

(表-1) 高等部教育課程におけるテーマ実践の場とその主な指導形態

指導単位など S・Nの 取り組みの柱	日常生活の指導				生活一般	国語	保健体育	音楽	職業	行事単元学習			
	給食	朝の会等	着がえ	諸検査他	社会他	お父さん他	陸上(リレー)他	ドレミの歌他	印刷	校実 内習	運動会	校外宿 泊学習	職場 実習
指示の理解		●			◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎
自信をもった行動	◎	◎	◎	◎◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	

※ これはその時間の意図として、◎…個別指導型か●…集団内指導型かどちらに重点をおいて指導したかを示すものである。

(表一 2) 各指導単位の学習の概要及び S・N への配慮事項

単位	主な内容	学 習 の ポ イ ン ト・概 要	S・Nへの配慮事項
日常生活指導	○給食指導 ○朝の会、帰りの会 ○更衣 ○諸検査	・食事量の増加とスピードを目標に声かけ、励ましを中心に指導。 ・交代で司会に当たる。内容は①あいさつ ②健康観察 ③家での様子。今日の反省 ④先生の話で構成する。 ・更衣室にひとりで行き、短時間で着替える。 ・級友による励ましや声かけ。学級の雰囲気づくり。	・量の確保と食べ方の工夫。 ・できるだけひとりで進行させ級友にも応援させる。 ・特定の生徒に対する指導。 ・しつこく強制しない。
生活一般	○友達と仲良く ○心と体 ○協力	・席順でペアを組み、互いに協力し合う体制づくり。 ・男子と女子の特性を認め合い、支え合う学級の雰囲気づくり。 ・相手の気持ちを考えた行動がとれるよう話し合いを多くもつ。	・S・Nをはじめ級友の良い点、特性などを理解させ、仲間として意識させるようにする。
国語	○今年の目標 ○お父さん ○台詞の言い方	・「ぼくは○○をがんばります」のパターンで目標を発表する。 ・「ぼくの父は○○です」のパターンで父親の紹介をする。 ・劇の流れに応じた抑揚のある言い方をする。	・友達の発表をまねさせる。 ・友達の発表をまねさせる。 ・まねる→ほめるを繰り返す。
保健体育	○長距離走 ○陸上 ○水泳 ○ボール運動 ○なわとび	・主として朝の活動で、各自めあてを決めて実施する。 ・さまざまな形式のリレーを取り入れ、その楽しさを味わわせる。 ・シャワーに慣れる。ビート板でのバタ足で距離をのばす。 ・サッカーを中心に、相手にパスして簡易ゲームを楽しむ。 ・長なわとびでの走りぬけと、連続とびの回数に挑戦。	・声かけをし、賞賛する。 ・チーム意識を高める工夫。 ・強制せず声かけで意欲づけ。 ・パスの工夫と相手の意識。 ・音楽の利用。恐怖感の軽減。
音楽	○ドレミの歌 ○ピアノカ鼓隊 ○秋の歌	・振りをつけて歌ったり、楽器で演奏したりする。 ・いろいろな楽器を取り入れて合奏する。 ・新しい歌を覚えたり、合唱や合奏をしたりする。	・発表の機会を与え賞賛する。 ・得意なピアノカを吹かせる。 ・到達度をみて課題をかえる。
職業	○活字の返し ○掃除 ○反省会	・5号、3号の活字だけでなく4号、9ポ、6ポの活字の拾いや返しに挑戦する。 ・すすんで掃除をし、あとしまつもきちんとする。 ・他の人のまねではない自分の反省をはっきり言う。	・作業にしろあとしまつにしるすすんで取り組める準備や雰囲気づくりをしておく。
行事単元・学習	○校内職業実習 ○運動会 ○学習発表会 ○職場実習	・紙工、農園作業でさつまいもの植えつけや草とり、年賀状印刷での活字の返しの作業などに取り組む。 ・自分の目標、学級のスローガンを決める。自分の役割の確認と団結や協力をめざした学級の雰囲気づくり。 ・自分の配役の確認や入退場、台詞の練習。楽器(ピアノカ)や合唱の練習。なわとびの練習。 ・さざなみ作業において紙工、バインダーの組立。一般企業(弱電関係)での軽作業。これらの作業における技能の修得と集中力の養成。職場の雰囲気に慣れる。	・作業の要領を正しくつかませ見通しをもたせる。 ・雰囲気にひたらせ、気持ちを高めていく。 ・励まし→賞賛を繰り返し、のびのびと学習させる。 ・受け入れ側との打ち合わせを綿密にし、ほどほどの緊張感をもって実習をさせる。

5. 指導実践例

まず日常生活の指導において、S・Nに対するアプローチの仕方を、個別指導型と集団内指導型の2つに分けて、その実践を試みた。

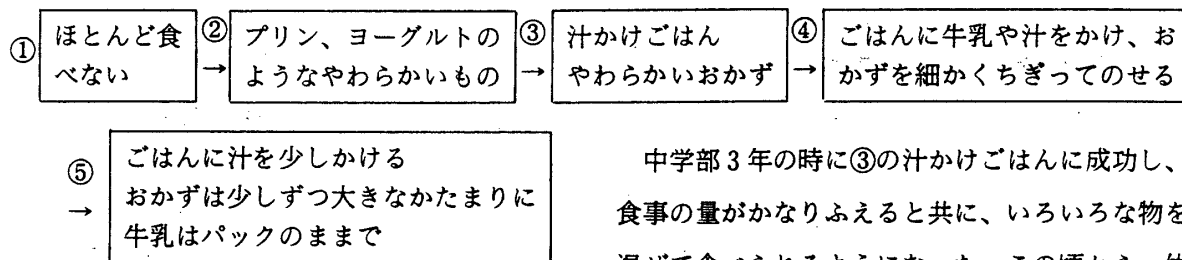
(1) 日常生活の指導 ～個別指導型～

——食事の量の増加による体格・体力の向上——

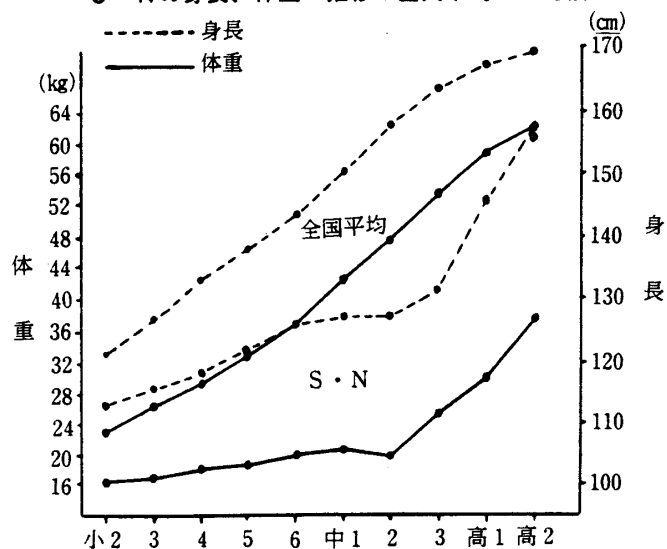
〈実態〉 右のグラフは、S・Nの小学部時代からの身長、体重の変化を示したものである。健常児の全国平均と比べても、極端に体格面で劣っており、これが本児のもつ障害に大きく関与していることがわかる。小・中時代は口の中に物を入れることを極端に嫌い、また歯の成育が悪く、歯ぐきに物があたって痛くてかめないといった実態であった。ローレル指数も常に90～95で、やせすぎの判定である。

〈手だてとその変容〉

小・中学部から現在に至る毎日の食事指導で、とにかく少しでも食べる量をふやすことを目標にして下記のように取り組んできた。



S・Nの身長、体重の推移と全国平均との比較



中学部3年の時に③の汁かけごはん成功し、食事の量がかなりふえると共に、いろいろな物を混ぜて食べられるようになった。この頃から、体格が飛躍的に向上している。この体格の向上がS・Nがそれ以後めざましく変容していく素地となっているのではないと思われる。

現在では、食べる量は確保しながら、少しずつおかずを大きくしたり、牛乳はできるだけそれ単独で飲むことができることをめざして、指導を継続中である。

(2) 日常生活の指導 ～集団内指導型～

〈実態〉 S・Nは口の中に金属や物を入れたり、体に触れられたりするのを極端に恐れ、いやがった。特に、歯牙検査や内科検診等での接触、注射などを嫌い、泣きわめき、できないからほとんど押さえつけてやっていたという実態であった。また、せみの声など特定の連続した音にこだわり、パニックをおこしたり、着がえの



(4月当初、注射をこわがるS・N)

時、特定の生徒に対し恐がり、着がえができなかったり、遅くなったりすることがよくあった。

〈手だて〉

学級集団での雰囲気や環境づくりに留意し、友だち同士の声かけ、励まし、協力等を事あるごとにうながし、なごやかで明るく、落ち着いて行動できる雰囲気づくりに心がけた。また、学級指導や朝の会、帰りの会等で、常に仲間を意識させ、援助し助け合うことの大切さや、集中して話す人の「目」を見て聞くこと、自分勝手な行動や友達を傷つけるような行為があった時などはその機を逃がさず、皆で話し合う——といったことをくり返し指導した。また、着がえにおいては、特定の生徒のからかいや威嚇行為を指導して、S. Nに対してひとりで着がえられるよう励まし、声かけをして自信を持たせながら、くり返し指導した。

〈変容〉

今では、ほとんど諸検査等もいやがらず、「ひとりで、ひとりで」と言って仲間に励まされながら、今まで考えられなかったように注射を受けることができるようになった。また、特定の連続音に対するこだわりは、せみに対して今すこしあるものの、かなり少なくなり、音を気にせず集中して物事に取り組めるようになってきている。さらに着がえにおいては、特定の生徒のからかい等も少なくなったことや、本人も少しずつ言いかえしたりできるようになってきたことから、自分ひとりで以前より早く着がえができるようになってきた。

(3) 保健体育科における実践 ～集団内指導型～

- ① 保健体育科における個人目標 ——友達とかかわりながら運動し、意欲的に運動を続けることができる——

単 元	実 態	方 針 と 手 だ て	変 容
①長距離走	・体格が著しく小さく持久力、筋力に欠け、長く走り続けることができない。	・食事指導による体格の向上（P 97参照）。マラソンカードによるめあての設定。他生徒からの励まし、声かけ。	・めあてを走り終えても、「あと一周です。」と言って他の者より余分に走ろうとした。走る速度が増した。
②水 泳	・水が顔にかかるのを恐がり、シャワーをいやがる。体力がないためビート板のバタ足も短い距離しかできない。	・強制というよりも励まし、声かけによって、はじめ3まで、5まで、10までとシャワーの時間を長くしていく。ビート板バタ足も目標を設定して意欲づけをする。	・「ひとりで、ひとりで」と言って自分からシャワーに入ることができはじめた。ビート板バタ足も体格の向上と意欲づけにより距離がのびた。
③ボール運動	・パスされるボールをこわがり、とめられない。また相手を意識してパスが正確にできない。ゲームの中にはほとんど参加できない。	・音楽をかけて少しでも緊張感をほぐしたり、まず手でころがしてうけとめたり、遊びの中に導入したり、他の生徒たちの声かけ、励ましをうながす。	・手でころがして受けとめられるようになり、そして足でも止められるようになった。さらには、相手やゴールにむかってパスやシュートができはじめたが、ゲームとなると指示がないと入れなかった。

④陸上運動 (リレー)	・バトンタッチをこわがったり、リレーの内容がよく理解できず、タッチされてもスタートすることができない。	・いろいろな形式のリレー（回旋リレー、キャタピラリレー、ボールおくりリレー、ボールころがし、バトンリレー等）を導入したり、音楽をかけたりして意欲づけを図った。仲間の応援にも力を入れた。	・以前よりタッチがスムーズにでき出し、タッチされたらスタートすることができた。またバトンをもっても大またではやく走ろうとし、リレーに勝つと万歳ができた。
⑤なわとび	・長なわが触れたり、大きくまわるのをおそれたりするうえ、とぶタイミングがつかめないため、ほとんどひとりでとぶことができない。	・音楽でリズムをとったり、はじめは教師と一緒にとんで、とび方の要領をおぼえさせた。さらに、一人でとぶタイミングは、背中を押してやり、スムーズに入れるよう導いた。数は全員で数えた。	・学習発表会では、長縄とびの回旋とびを5人が入ってとび、その中のひとりとして連続20数回とぶことができた。母親が、「快挙です。」と絶賛された。

(4) 行事単元学習（運動会）における実践例 ～集団内指導型～

1 単元名 運動会

2 単元設定の理由 ——略——

3 単元目標

- (1) 見通しをもって準備・練習に取り組むことによって楽しい運動会にしようとする意欲を高める。
- (2) クラスやチームにおいて、友だちと協力することの大切さに気づく。
- (3) 具体的な目標をたて、反省することにより、今後の行事や生活に生かす。

4 指導計画（全6時間）

第一次 運動会を前に——3時間

- 自分の目標を決めよう——2
- 学級のスローガンを決めよう——1

第二次 運動会をふり返って——3時間

- 運動会を反省しよう——（本時）——1
- 作文「運動会の思い出」——2

5 本時の題材名 運動会を反省しよう

6 本時の題材観——略——

7 本時目標

- (1) 運動会で楽しかったこと、頑張ったことを自信をもって発表できる。
- (2) 自分の目標を反省し、これから頑張りたいことを一つ以上発表できる。

8 準備 運動会個人目標を書いた模造紙 反省用アンケート用紙（3種類）

9 学習過程

学 習 活 動	S・Nへの配慮事項	S・Nの活動の様子
1. 運動会学級スローガンをみんなで思い出す。 （「燃えろ！力の限り」）	・クラス全員でスローガンを数回大きな声で唱えることにより、S・Nへの意識づけを行なう。次にS・Nに指名しひとりで復唱させる。	・指名された後、起立はしたが言葉はすぐには出なかった。「燃えろ」と最初の部分を言っていると、ひとりで最初から続けて大きな声で復唱できた。
3. 自分の運動会目標をアンケート用紙を使って、反省する。 （S・Nの目標一友達と一緒に召集の仕事頑張る）	・12名の生徒の実態に即した学習指導を図るため、2グループに分けアンケート用紙は3種類準備する。S・Nには声かけにより、質問の内容を一層具体化しよう努める。	・召集係の他のメンバーの名前は、ほぼ正確にいうことができたが、召集係の仕事内容は理解されてなかった。アンケートに選択肢を取り入れたことは、かえってS・Nを混乱させた。
4. 3で反省したことを、ひとりずつ発表する。 ・目標の反省 ○運動会を終えての感想 ○これから頑張ること	・発表することが得意な生徒を数人、最初に発表させることで、S・Nに自発的な模倣をさせることをねらう。	・アンケート用紙の記入と、発表とが結びつかず、最初ひとりで発表することはできなかった。しかし、ピアノ鼓隊を頑張ったという意思表示はできた。

10 本単元の反省と考察

- ① 毎日、学級スローガンを唱えたり、朝の会、帰りの会で「今日の目標」を決定、反省することで、学級集団の行事参加への意欲は高まった。S・Nもスローガンを一緒に唱え、目標を反省したり召集係の友達を意識するなど、運動会参加の見通しがもてたのではないかな。
- ② 目標を決めたり、反省する時に、多くの条件、要因を提示することは、判断力、意思表示力の劣るS・Nには混乱をまねくことになる。発問の仕方に、相当の検討が必要である。

(5) 国語科における実践例

① 基本的な構え

国語科では、言語に対する不安感を除去し、他からの指示を正しく聞くことのできる力を養うことをねらいとして、・語いをふやす ・相手の言葉をよく聞く ・話し方のパターンや話し方を身につけるという3つに力点をおいて指導している。その際、学習が生活から遊離したものにならないため、題材を日常生活と結びついたものの中から精選すること、学習したものが日常生活に繰り返し必要とされ、ドリルによって定着した力になることを基本的な構えとしている。

② 実践例 単元名「ぼくのお父さん」（全7時間）の指導を通して

父の日を前にした6月上旬、身近な存在である父親をより正しく認識することをねらいとして設定した単元である。この単元における指導の流れとS・Nの学習の実態は、次に記すとおりである。

	指導計画	指導のねらい	指導上の手だて	S・Nの学習の実態
第一次	詩「とうちゃんの手」を読もう（1時間）	○詩を抑揚をつけてはきはきと読む。 ○詩の内容が少しはわかる。	○範読を聞いてまねさせる。 ○詩の中に使われている単語が解答となるような具体的な問いかけをする。	○本人にとって手本となる読み（教師、生徒）を4回聞いた後読む。語尾を引っぱる傾向があるが抑揚をつけて上手に読む。 ○動きの指示よりも理解に劣るが、働いていることは読みとった。
第二次	お父さんについて調べよう（家庭も学習の場となる。2時間）	○お父さんに「○○は何ですか」と質問する。 ○聞いたことをプリントにわかるようにメモする。	○質問項目をプリントしておき、家庭には事前に学習の意図を伝えておく。 ○質問の練習をしておく。	○父親に「○○は何ですか」ときちんと質問する。メモは母親の補助を受けてする。質問のパターンは覚えているが、質問の内容（興味、将来への夢等）については理解が十分でない。
	お父さんについて発表しよう（2時間）	○友だちにお父さんのことをわかりやすく発表する。 ○友だちの発表を集中してよく聞く。	○発表のパターンを決めておき、手本となる友達の発表をまねてさせる。	○父親の名「万誠」の読みを教師が問うと「かずあきです」と教える。発表のパターンに従って大きな声で発表したが、やはり語尾を引っぱりやや抑揚のない言い方をする。
第三次	お父さんに手紙を書こう（2時間）	○お父さんのことを考えながら文を書く。	○傍にいて、S・Nの問いかけに応ずる。つまったら適当に誘導する。	○「お父さん、お父さん」と言いながら書く。大好き、出張、さびしい、お風呂などの単語をボツリと口にし、それを教師と一緒に文にする。

この単元における学習の成果として、次のような点を認めることができる。

- ・父親への親近感がいっそう増し、朝の会で家の様子を発表する際、父親が出張したこと、一緒に入浴したことなど、父親に関する内容がふえてきた。

○父親の勤務先や仕事の内容がほぼ正確に理解でき、いつ問われても正しく答えられるようになってきた。

- ・友だちの発表の仕方をまね、自分なりに話を構成して発表しようとした。
- ・具体的な指示ならすぐ理解し、いちいち確認を求めなくても行動に移そうとした。


③ 考察

ほぼ決まったパターンであれば、多少は内容を自分なりにアレンジし皆の前で発表することに抵抗がなくなりつつある。しかし、自分なりの判断を必要とするような指示を与えられるとやはり動揺し不適応行動につながる傾向が認められるため、継続指導がなされねばならない。

(6) 音楽科における実践例 ～集団内指導型～

① 音楽科における個人目標 ——自信を持って歌ったり演奏したりする——

② 音楽科における実態

- ・リズム打ち——ほぼ正確にできるが「」などやや早めのリズム打ちになると乱れやすくなる。
- ・歌唱技能——正しい音程とは言えないが、歌詞を比較的早く覚えて歌う。
- ・ピアノ演奏——自分で音をさぐりながら弾くことができ習得が早い。一度習得した曲は、忘れることがない。しかし、他の楽器にテンポを合わせて合奏しようとする意識があまりない。
- ・全体に出された指示だけではすぐ行動に移すことができず、周囲の動きを見たりS・Nへ

の個人的な声かけを耳にしたりしてから動くことが多い。

③ 音楽科での手だてと方針

音楽の学習では、個人練習→発表のパターンを取り入れ学習の流れが単調にならないようにまた、各生徒の学習成果が評価しやすいように配慮した。S・Nはグループ内において技能的に高い方であるので、発表の際、最初にさせる機会を多くし他の手本にさせた。発表した後は必ず賞賛の言葉をかけるとともに頭をなでて賞賛を態度で示すようにした。また、殊にピアノ演奏では、他の生徒より難度の高い課題を与え、それを成し遂げさせるようにした。さらには、指示を出す際には、個別に出すような配慮もした。以上のような手だてを加えることにより、自信を持たせ、内面的な落ちつきを図らせながら学習へ参加させるように努めた。

④ 音楽学習での実態

月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月
題材	ドレミの歌	たなばた	ピアノカ鼓隊	秋のうた	ドレミの歌	クリスマスの歌
実 態	<ul style="list-style-type: none"> ・数人で前に出て振りつけをしながら歌った。 ・リズム楽器を用いて、ほぼ正確にリズム打ちをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振りつけを誰よりも先に覚え自分から挙手をして人前に出て発表した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「チューリップ」と「きらきら星」を第1回の練習の時からピアノで弾いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どんぐり」の曲の一部、ピアノで弾かせる予定にしていたところ全部でも弾くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ドレミ」の歌全部を2～3回の練習だけでピアノを使って弾いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あわてんぼうのサンタクロース」の1番から5番までの歌詞を覚え、進んで人前に出て歌ったり、リズム打ちをしたりした。



⑤ 考察

ピアノ演奏では、教師が期待していた以上に習得がよく、指定された曲を次々にこなしていった。発表する態度も当初より積極的になりだし、個別の声かけの回数も減ってきた。また、学習中、笑みを浮かべながら楽しそうに取り組む様子も見られるようになってきた。

「たなばた」を歌う S・N

(7) 職業科（印刷）における実践例 ～個別指導型～

職業科（印刷）においては、4月から12月における技能・態度等の変容を中心にまとめた。

活 動	4 月 の 実 態	12 月 の 実 態
<ul style="list-style-type: none"> ・印刷室への入り方 ・作業内容の把握 ・活字の返し 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度立ち止まり様子をうかがって入る。 ・指示されるまでじっと待つ。 ・時間等にほとんど意識がない。 ・座り込んで返す時があり、ひらがなより漢字を好む。9ポ、4号、 	<ul style="list-style-type: none"> ・「失礼します。」と大声で入室する。 ・返しの活字があればさっさと作業する。 ・黒板に作業時間を書く。 ・○寺～○寺まで→○時～○時まで、と書くようになり、時間を意識し、一度の指示で字も直せる。 ・殆んど立ったまま直す。9ポ、4号、3号の識別ができる。

<ul style="list-style-type: none"> ・難しい活字の対応 ・S・Uへの態度 ・返し以外の指示に対して ・仲間との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 3号の識別が難しい。 ・「先生わかりません」と必ず聞きに来る。難しいと「トイレに行ってくる。」と、時間中に2、3回トイレに逃げる。 ・漢字表の見方を何回か教え直す。 ・こわいのにちょっかいを出す。 ・全く反応しようとせず、よそを向くことが多い。 ・オウム返しが多く、会話にならない時の方が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・殆んど聞かずに返す。しかし、時々ごまかして別のケースに入れる場面が見られる。 ・番号の指示のみで表からすぐ見つける。 ・無視することが多くなる。 ・指示が一度で通ることが多くなる。 「紙をケースから出して、この大きさに切って下さい。」→一度でできる。 「切った紙を机の上に並べて下さい。」→すぐ動作に移せる。 ・自分の方から「○君～して下さい。」とか、T君のふざけに答えて、二人でキャツキャツと騒ぐことが多くなる。
---	--	--

(8) 職場実習について

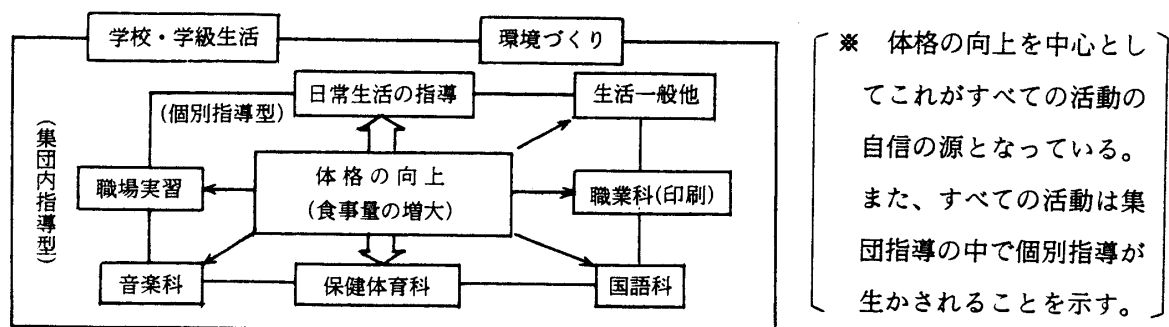
S・Nは、この10月に初めて職場実験を体験した。それまでは、校内やささなみ作業所での実習（紙工、農園、バインダー組立て等）が主であった。仕事内容は、S・Nの器用さや要領を覚えれば確実にできるという特性を生かすため、主にグリス塗りを教師が補助について行った。

評価は次の通りである。○……遅刻をしない、あいさつ、返事、仕事中に作業場を離れない、禁じられた行為をしない。根気よくできる。△……敬語が使える。仕事が正確、ていねい。×……仕事中のよそ見、報告と次の指示を抑ぐ、話の仲間になれる。

この実習により、集中力をつけること、指示を正しく理解すること、社交性の3つの点が課題となることがわかった。

5. 考察とまとめ

こうした取り組みの結果、S・Nはこの一年間著しい成長を遂げている。その第一の理由としてS・Nにとって「自信」の根底にあったものは「体格の向上」であったように思う。いかに本児にとって食生活の変化が行動パターンを増大させ、自信に結びついていったことか。さらにもう1つ



の大きな要因は「学級」を母体とした「環境づくり」であった。学級という集団、また様々な学習集団等、本人の長所や特性、よい面が生かされ、のびのびと自信を持って自分を表現できる場の設定、環境、雰囲気づくりに重点をおいたという点である。

S・Nを含め、私達はもとよりすべての生徒たちは集団の中で生活している。そうした中でいかにその集団に適応し、社会参加を目指して生きていける力を身につけることができるかということである。そうした場合にいわゆる「個別指導型」と「集団内指導型」をうまく兼ね合わせて指導していくことが重要なポイントとなると考える。生徒達は今、学校という集団で生き、学級という集団で生活している。そして高等部の生徒はやがて社会という集団へと巣立っていく。社会に出て職場に出た時、私達教師のように個別に意図を持って接触し、彼らを伸ばそうとする教師にかわるような存在は、望めるのだろうか。

そうすると高等部においては、いかに「集団内指導型」に重点をおいて指導を重ねていかねばいけないかを痛感する。家庭をベースとし、学校・職場・そして社会という集団の中で仲間をつくり、仲間と関わり合い、いかに生きていけるか。集団の中でもまれ、人と同じことや人と協調して生きていけることの重大さ、また少しでも自分のできる仕事を見出し、認めてもらい、自己を確立させようとするものの必要性を改めて感ぜずにはいられない。

S・Nはまた未知の可能性を秘めている。少しでもこの可能性を我々教師が見つけ出し、集団の中で生かして社会に適応してたくましく生きぬく実践力を身につけさせるかが、今後の課題であろう。当然それは家庭との連携あつてのものであることはいうまでもない。来年は高3で社会人の一歩手前であるという立場を見すえて、日々実践に取り組まねばと心を新たにす次第である。今後さらに職場実習等で社会集団に接する機会を持ち、その中で適応して、指示が理解でき、自信を持った行動がとれ、人との好ましい関わり方が少しでもできるように一層の指導、研究を重ねていきたい。

高等部のまとめと今後の課題

高等部では、研究主題に向けての事例研究を研究の一～二年次は各教員の個人研究で、三年次は共同研究で取り組んだ。いま取り組みを終えて、その考察・反省を次のようにまとめた。

- (1) 高等部三年間だけでの変容は、大きくはなかなか図れないかもしれない。しかし、我々は、その中で、青年期の身体や精神の特性を的確にとらえ、生かしながら指導し、少しでも多くの変容を期待しなければならないと考える。そのとらえ方や生かし方の工夫をいかにしていくかが課題となる。さらに、幼少時から、学校と家庭（施設）とが人格形成に向けて長期的な見通しを持った取り組みを進めることの大切さを痛感したのである。
- (2) ややもすると教師主導型の指導になりがちであった。それは大事ではあるが、教師や生徒同士の人間関係を豊かに育てるために、集団をどのように編成し、それをどのように向上させていったらよいかが今後の課題である。
- (3) 一人の研究対象児を複数の教師で共同研究をすることにより、子どものとらえ方、仮説の立て方、指導の手だて等に多面的な取り組みができたことは一つの成果である。

- (4) 我々は、一人ひとりの生徒が個に応じた社会参加を果すことができるよう今後も研究実践を模索し、努力していきたい。また、社会に巣立つ子らに対して、①彼らを支え、励げましていただけるよき理解者を多くつくることと②彼らを受け入れる施設や作業所の増設・拡充と職場の確保のために一層取り組むことは、彼らのより確かな社会参加を可能にする条件であると考えてるのである。